

Title	ロシア語入力の試行錯誤
Author(s)	上原, 順一
Citation	サイバーメディア・フォーラム. 2019, 19, p. 38-39
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/73412
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

ロシア語入力の試行錯誤

上原 順一 (大阪大学 言語文化研究科)

1. はじめに

言語文化研究科言語社会専攻の上原順一と申します。この大学院や外国語学部などでロシア語関連の授業を担当しています。外国語学部のロシア語1年生向け授業は、週2回、サイバーメディアセンターのCALL教室でおこなっています。設備、使い勝手が授業の内容にマッチしており、利便性を実感する日常をすごしています。

2. ロシア語とパソコン

ロシア語をパソコンで読み書きすること自体、このご時世、いたって自然なことです。ただ、パソコンが普及し始めた頃は、いろいろな困難が伴いました。ロシア語を読み書きできるワープロソフトはあったのですが、文字はそのソフトの内部でのみ使えるものでした。それを補うように私が利用していたのが、MS-DOSで動くテキストエディタのマクロを利用して、いわゆる全角ロシア文字を書くことでした。この文字は日本語のOS上では比較的汎用性が大きかったと思います。その後、WindowsであろうがMacであろうが、それぞれでロシア文字フォントが利用できるようになり、また、いわゆるUnicodeが多くの局面で読み書きできるようになってからは、このあたりの難点はなくなったようです。

現時点で、解決した方が良い課題は、おそらくロシア文字の入力方法です。パソコンのロシア語キーボード配列は、ローマ字の配列とは、当然のことながら異なります。通常、ロシア文字の ф (f) はローマ字のキー a に、г (g) はローマ字のキー u に割り当てられています。がんばってローマ字、ないしは英語のキー配列を覚えて、タッチタイピングが完璧にできるようになっても、ロシア語を勉強し始めた学生たちは、ロシア語のキー配列という未知な世界に直面することになるわけです。

私はこのロシア語のキー配列は、結局暗記しませんでした。ロシア語の世界にいながら、この配列で

ロシア語を書きこなせない人は、めずらしいのではないかと想像します。私がロシア語を書くために利用している方法は、f と書けば ф、g と書けば г というように、ローマ字のようにロシア文字を書くことです。ローマ字配列でロシア語を書く方法はいくつかあり、それぞれをかなり長い間使っていたので、覚えずにすんだというのが実際のところでした。

ひとつめの方法は、LaTeX でした。私が使っていた頃は、ロシア語を書くのにロシア文字ではなくローマ字を打ち込んでいました。そのローマ字部分をロシア文字として出力する命令を記述しておくのです。このため、ロシア語配列は暗記せずに簡単に書くことが可能でした。個人的なことで申し訳ありませんが、この LaTeX を始めて習ったのが、言語文化研究科の授業でした。当時は、パソコン通信で多くのファイルを取得して、LaTeX の環境を構築するのに苦労していました。ただ、大学の端末を利用すると、なんとそれがインターネットにつながっており、無料で、高速にファイルをダウンロードできることがわかったのです。この端末は、当時の情報処理教育センターにあったと記憶しています。だとすると、サイバーメディアセンターと私の出会いは、この頃に遡れるでしょう。

その後、Windows でも Mac でも、ローマ字配列に似たロシア語配列が設定可能であることを知り、現在に至ります。これは "Russian - Phonetic" などと呼ばれている配列です。ローマ字配列に慣れていればロシア文字を容易に入力できます。私は長年 Mac でこれを使っており、おそらくこれからも同じでしょう。ついに、ロシア語配列を暗記しないままでいそうです。さらに、配列を編集するエディタも配布されていて、文字をキーボードの適当な場所に設定できるほか、アクセント記号の入力も簡単に行えるようになっています。Mac なら Ukelele というソフトが使えます。

3. CALL でのロシア語の授業

ここからは私が CALL 教室で行っている授業について述べます。ロシア語を含んだ映像を学生に見せるには、学生機 2 台の間に設置されているセンタモニタが重宝します。遠くのスクリーンよりも近くのモニタの方が見やすいという学生の声はたびたび耳にします。私も同感です。出席は教員機で確認できます。私が CALL で最も助かっているのが、CLE の利用です。ロシア語の試験を行う際、語彙・文法、聴解、読解の 3 種類（作文と会話以外）は CLE で回答してもらいます。ロシアの標準では、これらの 3 種類は選択式で出題されるので、それに合わせて CLE では多肢選択で出題します。問題自体は、印刷物を配布することが多いです。これは、モニタを長時間見続けると目が疲れるのではないかという配慮です。作文や普段の課題は、ロシア語を入力することで回答できなくはないのですが、私の中では最適な方法を模索中です。スマホを主要な通信機器にしている学生にとって、ロシア語配列や、ローマ字配列、そして上で述べた "Russian - Phonetic" がどれほど使いやすいのかどうか、まだ検討中です。また、ロシア語を PC で書くことになっていない学生は、綴りのミスが多いようです。

学生の発音を教員がヘッドフォンでモニタできることも、CALL の特長です。この方法ですと、よりクリアにきくことが可能ですし、一対一方式で学生へのフィードバックもマイクを通して行えます。

学生に PC を利用してもらうときには、ロシア語以外の話しもしています。たとえば、姿勢を正しく保つためにイスの高さを調整すること、いくつかのショートカットキーは知っておくとかなり便利なこと … などです。

4. ロシア語入力のこれから

自分自身が試行錯誤してきたロシア語入力はキーボードに関係するものでした。しかし、そろそろ音声入力が本格的に多用される可能性があります。実際、iPhone のキーボードにロシア語を追加しておき、キーでロシア語が入力できる状態でマイクボタ

ンを押すと、ロシア語の音声入力ができます。発音がある程度正しいことが前提になるでしょうが、ネットで調べる程度の単語や短いフレーズなら、問題ないようです。

5. おわりに

もし私の専門とする言語の文字体系がローマ字だったなら、パソコンで文字を書くという基本的な操作に苦勞を味わうこともなかったでしょう。しかし、この課題を解決しながら、ロシア語やパソコン、ネットに取り組むことで、実に美しい出力をしてくれる LaTeX や、今となっては手放せない "Russian - Phonetic" などと出会うことになりました。なにより、このあたりの知見をくださった先生方に感謝しております。自分の専攻ではいわゆる e-learning に参加することで活動の幅が広がったように感じます。良きご縁に恵まれているなど、CALL 教室で授業をしている際に思います。